

製品名: Cdc42EP4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08521**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC42EP4
別名	CDC42EP4; BORG4; CEP4; Cdc42 effector protein 4; Binder of Rho GTPases 4
遺伝子 ID	23580.0
SwissProt ID	Q9H3Q1
免疫原	抗血清はヒト BORG4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

背景

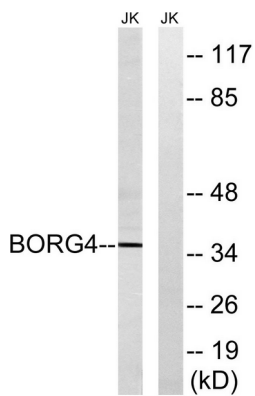
この遺伝子産物は CDC42 結合タンパク質ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは Rho ファミリー GTPase と相互作用し、アクチン細胞骨格の形成を制御します。このタンパク質は、GTP 依存的に CDC42 および TC10 GTPase の両方に結合するこ

とが示されています。線維芽細胞で過剰発現させたところ、このタンパク質は偽足形成を誘導することができ、アクチンフィラメントの集合と細胞形状制御を誘導する役割を示唆しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: おそらくアクチン細胞骨格の形成に関与しています。CDC42 の下流で作用し、アクチンフィラメントの集合を誘導して細胞形状変化を引き起こす可能性があります。線維芽細胞で過剰発現すると、偽足形成を誘導する。類似性: BORG/CEP ファミリーに属する。類似性: 1 つの CRIB ドメインを含む。サブユニット: CDC42 および RHOQ と GTP 依存的に相互作用する。組織特異性: 試験した成体組織では検出されなかった。胎児または胚組織でのみ発現する可能性がある。、

研究分野

-

画像データ



BORG4 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。